# ミオヤの光

## 淨化の卷


五悪の淨化……一
十二誡……二〇
疑……二一
處世訓……二三
家庭訓……三七
交友訓……四九
歓喜光なき處……五二
ミオヤの大悲……五三


## 五悪の淨化

五濁衆生は諸罪悪無量なり。五悪を以て一切の悪を攝す。人倫の道徳上此五悪は最も悪の大なるもの、此五悪の業の根ざし深く罪の勢力繁榮して其罪の益々發達するに隨て現在に罰の厄報を受けて而して其己が業神識に冠識したる結果は未來地獄の火に焚燒されて苦を受くるを果報と云ふ。一切世間の人民悉く各自業自得の結果自ら造て自ら苦を受く。此世の衆生は動物欲の方より見れば焔々たる大火の中に流行する悪の毒瓦斯に籠められて正見は昏酔し朦冥抵突にして各々殺毒を懐きて互に相尅す。斯の如きの滔々たる社會の中に毒素に感じて悉く良心昏酔し善心滅亡せる比々皆然り。されば佛陀此世に出給ひて敎ふに彌陀の光明を以てす。衆生内薫の佛性あり。彌陀の光明に適ふ時は五悪五燒の火を消して精神的に清涼なり。實に念佛者は火中の蓮なり。佛曰く「汝能く此世に於て端心正意衆悪を作さざるは甚だ至徳とす。



十方世界最も倫匹なし。其故は他の諸國土の天人の類は自然に善を作して大に悪を爲さず、開化すべきこと易し。理想境と現實とは大に同じからず。理想世界は自然に善を作して現實の世界は然らず。されば我世に於て作佛して五悪（因業）五痛（悪業現世苦罰）五燒（未來地獄火中苦）の中に處して衆生を敎化すること最も劇苦なりとす。群生を敎化して五悪を拾てしめ五痛を去らしめ五燒を離れしめ其意を降伏して五善を持して其福徳、度世、長壽、平和の道を獲せしむ」と。滔々たる衆悪の中に佛陀の敎によりて彌陀の光明に靈は清められ復活して聖生命となるものは實に是奇特なり。火中の蓮と云ふべきのみ。此泥中の蓮、されば斯人を擧げて人中の白蓮華と稱し玉ふ其れ宜ならずや。

### 第一の悪

殘害殺戮の悪。不仁不順の罪徳。一切生物が最も愛する者は生命なり。最貴重とするは命なり。最も愛重する生命を保護して他の苦を拔き安きを與ふるは即ち仁慈なり。殺生は不仁の最なり。悪の最重なり。佛敎道徳律の中不殺生戒を第一とす。人類精神に他の動物と異る處人には理性あり。理性は己を以て他人を恕ることが出來る畜類は理性なきが故に己が苦を以て他も矢張り苦なりと推察することができぬ。故に畜類は唯本能的に己が苦痛は感ずべきも道理的に他の苦を推察することは出來ぬ。故に畜類が例へば猫が鼠を食ひたりとも敢て罪悪と云ふべからず。然れば彼等は本能的に唯己が痛苦を感ずべきも他の苦を察する理性なきなり。殺生の悪たるは第一の徳たる仁を缺きたる處なればなり。人類相互に社交的に共同相扶け合ふて生命を保護し福祉を增し仁を以て相互に愛し合ふ所に愛ありて初めて人生の眞價あるなり。人の愛は生命である。此愛が人類已下の動物は唯己が肉のみを愛して人類の如き理性的の愛仁怒同情と云ふ高等なる愛なきなり。然るに人も動物なり。眞理の光明に接せず動物性のみを放縱にせんか、他の動物と異にして智慧あり、其智慧を悪用して有ゆる罪悪を恣に爲すに至らば實に奸黠なる野獸にして實に淸度し難き生物となる。然れども

人には理性また靈性の具はるあり之を開く時は仁愛の心の花はいと麗はしく且つ香はし。されどまた人は靈性即ち叡知あると共に本能に肉體に依る煩悶の罪惡性も具はつて居る。惡の性を恣にする時は實に黠智の虎狼である。此第一の惡性を經に「世間の人民衆の惡を爲さんと欲して比々皆然り。强者は弱きを伏し轉た相尅賊し殘害殺戮して迭に相呑噬す。善を修むるの眞理なるを自覺せず惡逆無道なり」と。現在人類の一面を觀れば實に示し玉ふ如し。彼の歐洲の全面に亘りて彼我の數十萬の壯丁が轉尅賊し日々殺戮を事とし多くの人命を傷むるものを賞し生を殺すを偉とす。現代の鬪爭は是れ千載の一遇たりと雖も人類精神上の競爭相殺の點に至つては何時の時代と雖も異ることなし。現在の惡逆無道の業に報ひて或は現に王法の牢獄に投ぜられ闇憺たる縱令獄囚に入らざるも殺罪の積聚する處自己の腦裡に欝々たる悶擾々たり。世には殺人の業感自ら安ずる能はず自殺を企つるあり。

閻王父王を殺して自己の逆惡天地に充塞するを深く今後世に苦を受くることを怖れ王欝々として安からず、煩悶懊惱して止まず。後佛陀世尊の敎化を被り精神的に獄火に燒かるゝ苦惱の狀態より淸涼の蓮花を開かしめたり。壽終りて後世に尤だ深く尤だ劇し。其幽冥に入て生を轉じ魂神精識が焦熱の火に焦され叫喚の獄に號泣することは免れじ。大暴風市中の大火の如く一般の人類の精神は悉く逆惡の火に功德の寶を燒き可惜人生を火宅の中に投じて苦より苦に入らざるは無し。

唯世尊の敎に隨ひ彌陀の光明のみ能く此火を救ひ玉ふ。即ち極重惡人命終時、地獄衆火一時俱至も彌陀の光明威力を聞くや無量の罪消えて地獄の猛火忽ちに化して淸涼の風と爲つて諸天花を雨すと。彌陀の光明に依て罪惡の火中より出でて淸涼の心と爲り白蓮心花開きて即ち彌陀に依て靈に活きたる時なり。

彌陀の大慈悲に愛化せらるゝ時に我人が殘忍なる心も變じて分に慈化す。靈に活きる時仁慈以て己を恕して佗を哀れみ同情心を以て、釋尊過去世に己が身肉を以て鳩の命に替え身を投じて飢たる虎を助けし如くす。諸〻の殺生の中に最も重き者は自己の





靈性を殺すにあり。然るに彌陀を念じて靈に活くる時はまた延て一切の靈を活すに至る。是れ第一の德なり、己に靈に活きれば一心に如來の聖意を己が意として意を制し身を端し行を正せば超勝獨妙諸善を爲して衆惡を爲ざるに至る。竟には無上の光明と福德たる涅槃常樂に入ることを得。之れを第一の善とす。

己を恕りて他を憐れみ現世に心安穩に衆生と共に慈悲の心を以て相向ひ佛の眼を以て相看合ふて手を携へて共に現に無比の樂を受け後に淨土に生じて慈悲喜捨の德を全ふす是れ一大善とす。

## 第二義

二惡とは倫盜等の凡の義を傷ふ處ひ惡。人は正義を以て己が分を守り義務を盡すべく、他の財產及名譽幸福等を損害せざるは人の正義なり。然るを世の人理に暝く人慾に己が資生產業等の努力を忌みて唯己が身の逸樂を貪る。之を經に「世間の人民父子兄弟室家夫婦の間にも義理なく法度に順はず身の勤を勉めず奢淫驕縱にして各肉の快樂のみを貪求し放浪生活の習慣自恣にし互に相欺惑し合ひ巧言金色にして其實は佞諂不忠にして言を巧みにし諛ひ媚び賢人を嫉み善良なる者謗りて怨枉に陷れて、分を守り位を正くせず、主上明ならずして臣を任用し臣下はわがまゝにて機僞多端位に在つて正しからざるなり。其に欺かれ妄りに忠良を損じて天心に當はず、臣は其君を欺き君は其臣を欺き子は其父を欺き兄弟夫婦中外の知識互に欺誑す各胸に三毒を懷きて自ら己を厚せんと欲し多く有んことを欲念す。尊卑上下心俱に同しく然り。己か分を守らざる爲に、家を破り身を亡ぼし、前後を顧みず、禍を親族にまで及ぼすあり。或は親族知己の間も愚民野人の常として何か事を發しては互に利害の爭ひから各〻忿恨を結び怨を受く。富者は慳惜して世の爲に施さず黃金に跪き錢財の奴隸となる。或は醜賄に人格を害ふ。己が暴利を貪ばる爲に米穀等の買占を爲して細民を苦しめ細民は暴動を發して亂を爲す。或は高位顯官に在つて醜賄の爲に濫刑を受け王公の高きに在て奢華驕傲の爲に下民に塗炭の苦を與ふ。或は利害の爲に毒殺

する如き、斯の如く金財の爲に或は肉慾を貪ぼる爲に義理を妄りにし常に盗心を懷き或は賭博を嗜み金錢の爲には命を鴻毛より輕しとし義の爲には一歩をも損となす。實に卑劣なる情志斯の如きの惡風滔々として風靡せざるはなし。斯の如きの世に立つて獨り正義の旗を立て正々堂々として若くは社會に若くは家庭に正義の光を與へて覺醒せしむるものは是世尊の敎なり。

奇なる哉、世尊の敎に隨ひ如來の光明に觸る者悉く個人若くは社會正義に覺醒する時は正義の光互ひに讓り與へ或は金錢を寄與し米穀を喜捨して自ら薄うして他に厚うす。同朋兄弟孰か親疎あらん。金錢は天下の寶にして個物に非ず。如來は天地萬物を準備して衆生に讓與す。

我等が一日の天に受る資財幾干ぞや。我等は最善の努力を以て義務を竭さん。我が今衣食住是如來の賜。何等是我物ぞ。然れども自己の分を守り他を侵さず天に盡すべき義務感情を以て天下の人民に致さん。

世は財物の欲の爲に上下滔々として濁流に陷りたり。此中に於て彌陀の正義の光に覺醒し靈化せられたる者あらば世の光明なり。實に是奇特なる者なり。現在には財色の奴隸とならず正義に仕へて千萬人と雖も我往かんとの眞勇氣あり。日々に彌陀の聖力を力として日々に不義の惡魔と健鬪し地上に道德の世界を建設せんとし正々堂々たとひ世は悉く不義の大火に焚盡さるとも我は如來の正義の聖意を體して一心に意を制し身を端し行を正して諸善を作して衆惡を作さず。獨り超然として眞善美の理想界に往進す。

如來の正義より出づる正眞のみ眞の正義なり。

## 三、禮節の五倫

人には禮節あり君臣父子兄弟夫婦朋友等の間に於て行ふべき倫理なり五倫の中最中心と爲るは夫婦の禮なり。夫婦の倫に於て正しければ他は必ず道倫あらむ。人は男女の中を正しくすべし。性欲の御し難き、第三の惡は男女の間に起る惡を誡しむ。





經に其三惡とは世間人民男女相寄て寄生し共に天地の間に居り榮養を以て自己を保存するも生命限あり。有機的の生命は一定の限を經なば必ず死に歸す。生殖欲ありて種族を遺す。此性欲は上賢明長者より下貧窮厠賤劣愚夫あり。又中等の人あれども常に邪惡な心を懷きて唯嫉妬を念うて煩惱の炎が胸中に滿ち充ち愛欲の念に驅られて坐起安からず色を貪ぼり唐らに情に飽ることなく妖色を眄睨して眩惑を外の態度に現はし自妻をば厭忌して私妄に入出し爲に家財を費損し家庭に風波絶えず、嫉忌修羅場を演ず。三軍を叱咤する豪傑も細腰の爲には脆くも捕はる。廟堂に在る威風堂々たる宰官も蛾眉紅顏の前には奴隸と爲る。修得したる智識も性慾の爲には野獸性を暴露す

此の夫婦男女の道理が五倫中に最も神聖を保ち難きものである。故に若し之を縱にし妻子を恐迫脅かしたる因果として現在にも或は家財を壞りて末路の憐むべきあり或は爲に家庭の紊亂は惡影響を子孫に及ぼし、または過度の房事に命を促め體を弱くし、精神は種々苦悶憂鬱に包まれ色慾の餓鬼と爲り魔となる。風敎上にも衞生上にも最も男女間の神聖を要とす。婬姦の習慣性が業識に薫發し其精識に歸する處或は色魔の餓鬼道に墮ち又は邪婬の地獄火に燒かれる。世の衆生男女を通して此色慾煩惱の爲に胸を焦がし精神は炎々たる猛火の中に情熱の燃えたるあり。佛陀は可惜人生の精神精力をして情慾の煩惱の爲に燒かるるが如きは實に可哀と。

彌陀の神聖なる光明に人々本具の靈性を發揮して萬德圓滿靈的美人の彌陀に愛慕を起す。靈の愛は如來を慕ふ。如來に依て結ばれたる婚は眞に永遠に靈に結ばるゝなり此に心身のすべても結び、夫婦と又父子君臣の間も全く如來の眞理を體したる倫理にして眞の倫道となる。

佛陀は或婚禮の席に請せらし新婚者の爲に說王し事あり。佛は不邪婬を以て戒め給ふ。

尙進んで神聖なる彌陀の光明に靈化せらる。如來は無上の愛を以て我等を愛し玉ふ無比の麗はしき相好は衆生を愛し給ふ愛の表はれ、如來の慈愛に愛化せらるる時一心

に佛を見んと欲して身命を惜まざる心は彌陀の容るる處となりて神聖なる威嚴極りなき大慈悲の彌陀に愛化せらるる我を知るとき此靈の愛の光を以て家庭を照さば、一家圓樂宛然として夫婦親子兄弟は實に地上の樂園を如來の慈光浴及せる家庭に實現す。然ばとて靈は如來の慈愛の光に滿さるるとも肉のある限りはまだ家庭に黑き惡魔の陰なきに非ず。されども一心稱名の聲に彌陀光明が射來る時は魔の陰もいつしか去りぬ、現に家庭の樂園に咲く花はやがて彌陀の淨土に諸〻の上善人と俱會一處の果を結び、觀音勢至文珠普賢の諸〻の菩薩衆と共に一處に會することは、同じく彌陀の聖種の名號を正因として彌陀の光明に照され育まれたる一蓮に結びたる果に外ならず。

## 第四、信

信。處世上人類は社交的にも經濟的にも相互の間を緊ぎて離さざるものは信である若し私慾の爲めに權謀を用い詐僞をし虛構する如きを誡む。精神の他人に發表するものは言語である。社會相互の間を疏通し相照應するものは詞である。內心を表現する言語は最も愼むべきものである。公衆の信を失ひ又は他人の親密を害ひ怨恨を買ひ疑惑を招き敵慨心を起さしむ。種々の災を惹起するは言語である。言語の尤も惡と過失となるものは妄語と綺語と惡口と兩舌とである。人他人若くは公衆の爲に信用を失ふものは妄語が第一である。(詐僞虛構似僞物等)人の人格の野卑劣等を表はすものは巧言令色等の諂媚、又他を嘲弄する綺語である。烈火を以て物を燒き利刀を以て筋肉を割くが如くに相手をして敵慨心を惹起せしむるものは惡言と罵詈と誹謗とである。他の兩者の中間を毀し紊亂破壞中傷するものは兩舌である。

言語は其性格及び內心を發表する最も愼しむべきものである。口の四種の過失を誡めて經に「世間の闇き人等、善を修めんとの念を蓄へず轉相咬合ふて共に衆の惡を爲す、他人間の中を中傷する兩舌、己か名利を貪る妄語　または綺語讒賊鬪亂して善人を憎み嫉み賢明を攻擊し傍に於て自ら快しとす。二親に孝順なく師長を輕慢し朋友に信無くして誠實なく自ら尊大を構へて己偉なりと謂ひ。橫に威勢を振舞ひ人を侵易し自ら自己の眞價を覺らず惡を爲して恥づることなく己が强健を賴みて人の敬を欲す。今現在の生命を天地神明日月等の恩惠なりと知らず、故に天道を畏れず、己が選擧人の前には哀願して媚諂ひ、若し當選の上には自ら高うし、名譽の奴隷となり逐鹿の修羅となり其の卑劣情操と劣等なる理想實に憐むべし。縱令一時は飛ぶ鳥も落す勢力も眞實內に道德の缺乏すれば竟に公衆の爲めに非難を受け天の憎惡する處となり末路の憐れむべきは是內心實なき花なればなり。凭の如きの精識の歸する處、修羅場ならざれば地獄の底に沈むべきのみ。

凡惡の惡なる上下貧富の論なく智愚ともに滔々として心は此邪氣に感染せざるなし或は計れ或は惱み自ら起つの勇氣なきに至る。

若釋尊の敎に依り彌陀の神聖と正義の光を被むる時は自己は是佛子としての人格を有するが故に妄語を以て人を欺くは是れ先づ自己を欺くなり。己が神聖なる如來の光に照らさるる正見を欺く可からず、是自ら妄語綺語する能はざる所以なり。如來の慈悲に滿さるる時は怨親に拘はらず惡口罵詈と兩舌を以て中間を傷ふ如き事を致さぬ。されば社交上にも經濟上にも他人の信を得又愛敬を受く。

然れども我等は却て惡を好む凡夫なれば惡口や兩舌は好む處妄語綺語は自ら發現すべき內の性を有て居る。唯彌陀の靈に活かさるる靈性のみありて我等は如來の光明中に凡ては諸上善人なれば慈悲心を以て相互に交はり佛眼を以て相看て、理想の淨土に社交を爲し後には永遠に其實現に向つて向上せんことを。是第四の善とし、人中の希有妙好人なり奇特の人なり。

## 第五。智

是非の心は智の端と。本來人には理性あり、善惡邪正是非分別の智慧あり、是實行の智である。人には冷靜に照す時は己が行爲是非を分別するの智惠あり、けれども物に迷ふ時は眩惑せられて正しく是非を照見することが出來ぬ。此の物に迷ふて常を失ふ心を生理的に具體的に表せば卽ち飲酒家である。人酩酊する時は忽ちに平生の心を失

ふて言語動作に至るまで變調子となる。甚しきは常倫を紊すことあり。酩酊して常の心を失ふ如く人は其愛好する處に醉ふ時は甚正しきを得ず。愛しても其惡を見憎みても其の好きを見るは賢者の眼である。概して凡愚は愛して其子の惡しきを知ること無く其苗の稼なるを知ること無し。

人若婦人に迷へば婬婦を賢婦と謂ひ毒婦も節婦と見ゆ。或は其愛玩する嗜好物の如き、自ら愛する物は粗製も却て雅致ありと謂ふ如く、一切に魔醉する時は正しきを得ず佛陀が其害を誡めて第五の惡とす。されば經に、

「世間の人民徒倚懈怠して修身は勿論産業をも治めず、爲めに家族は飢と寒とに食なく衣なく困苦す。父母之に說諭を加へば忽ちに憤怒し違戾返逆す譬へば怨家の如く、寧ろ子無きに如かずと。取與節なしとて借りて返償することなく恩に報いなく、貧窮困乏して經世の道無きを意に介せず、放恣遊蕩唯己が口腹の樂を貪み酒に耽り美味を嗜み飲食度なく肆心放蕩常識を逸し魯扈抵突して人情を識らず義なく禮なく自己に對する反省なく自ら用て當然なりとして諫曉すべくもあらず、經濟上に於て親族及び佗人に迷惑を懸けることを敢て意とせず、彼が眼には父母もなければ師友の義もなし心常に惡を念じ口常に惡を言ひ自ら常に惡を行ひ曾て一善もなし。

人に道德と倫理上尤も第一なる正見の眼なく諸佛賢聖の經法を信せず道を行じて度世を得べきを信せず、神識更に生ずることを信せず、世人愚痴膠昧にして、生の從來せる處、死して趣向する庭を知らず、不仁不順にして天地に逆戾し唯其等の僥倖のみを希望して長生を求むれども如何せん會ず死に至るべし。慈心を以て敎悔して其をして善心に復活させんとし生死善惡因果の理を示せどもすべて之を信せず苦心に之を誨ゆれども其の人に益なし。終身心眼開けずして命終る時悔ゆともまた及ばず。

天地の間に善惡の因果苦樂の六道の道は分明である。然れとも愚夫は恢廓浩々茫々たり善惡の業は必ず己に報い來りて苦樂の果を受く。身自ら之を受けて誰も代る者なし、理の自然なる其所行に應じて殃咎は未來に命を追ふて縱捨することは出來ぬ





一切の衆生無始已來無明の酒に醉ひ肉我は酩酊して醒むることなく、斯る惡人は惡を行じて苦より苦に入り冥より冥に入り、人生闇黑の中に諸〳〵の惡業を結びて現在にも己が罪に責められ心意に平和と安寧無く苦しみ惱みて命終れば三塗の苦惱甚だ堪え難し。大火に焚燒さる如し。人能く中に於て一心に意を制し身を端し念を正し言行相副ひ所作至誠善をなして惡をなさざれ。

佛陀の敎に依り彌陀の智慧光に復活せられし衆生のみ如來に淸められ靈化せられて善人と爲る。經に善人は善を作して樂より樂に入り明より明に入る。光明中に靈活する人を善人とす。如來の聖意を承し行爲を善を爲すと、如來の中に活ける心意は法悅に充たされて心廣く體肝かに、靈的氣分常に快く現在より永遠の淨土光明の生活なれば、明より明に日々に樂しく日暮してまた永遠常樂に入る。

世は惡く五惡の爲めに滔々と渦卷せられ闇黑の中に墮落せざるなし。其果報として或は王法の牢獄又は精神の囚人となりて不靈なる日暮しをなす。

世尊此の五惡五痛五燒の世に出で玉ふ所以、若し世尊出世なくば衆生悉く但衆惡を作して善本を修せず皆悉く惡趣に墮落して獄火に燒かる。苦毒無量。自相燋燃せらる。

此五惡五痛の世は何人も免れざる處故に佛陀の出世の要あり。若し衆生悉く無爲自然に正善にして明樂ならば佛法要なきなり。又衆生本佛性あり、佛に成り得る性有るが故に、佛法能あるなり。佛の敎に隨ひ彌陀の光明を獲得する時は、五惡は轉じて五善となり、五痛は變じて五樂と化し、五燒は交りて五妙境界と爲る。經に「佛言はく我汝等を哀愍すること父母の子を念ふよりも甚だし、我今此世に於て作佛して五惡を淨化し、五燒を消除し、五燒を絕滅し、善を以て惡を攻め、生死の苦を拔き、五德を得て無爲の安きに昇らしむ。是世尊の出世の奇特の中の奇特なるものとす。

## 服膺すべき十二誡

處世十二戒と云ものがある。是は青年の能く意得て置くべき誡である。然るに此戒をいかに意得たならば守られませうと云ふのに、斯やうに持ちなされ。

怒る勿れとの戒は、我目的の如何を顧みて持て。

勞を厭ふ勿れとの戒は、金のなる樹は無しと思ふて持て。

油斷する勿れとの戒は、恐しい大敵と思ふて注意の上に注意すべし。

禮を失する勿れの戒は、人は感情の動物であるから慎めよと、

狼狽する勿れの戒は、氣海丹田に心をすえて從容として手を下すべしと持て。

慢心する勿れの戒は、大成功を期せん爲にと持つ。

自惚する勿れの戒は、自分の短處を認めて持て。

長座する勿れの戒は、時間は黄金なりと思ふて持て。

歎つ勿れとの戒は、斷然として勇進すべしと思ふて持ち。

心配する勿れの戒と、

取越苦勞する勿れの戒は、唯能く現在を處分すれば足れりと思ふて持て。

愚圖々々する勿れの戒は、直に起て機會を攫むべしと持てよ。

右の十二戒は處世上の誡であれば、青年衆は能く是を受持ちてと意懸れば精神の修養律となります。記憶にとめて常に心に懸て自己を誡て貰ひたい。

此六が備つて來たならば既に精神修養が極意に達したと云てよろしい。

## 疑

修養の第三は疑問である。大疑の下に大悟を生ずと云ふ。大疑問を起すのは精神修養に必要なものである。けれども能く工夫を凝らさぬ者には有益な疑問も起らぬ。

疑問とは何である例へば或人が人の性は善であると聞て大に疑を起した。若し人の





性が善ならば、なぜに貪りや瞋りなどの惡が發るだらうと疑つた果に、水の本性は清き物だけれども泥てふ汚物の爲に濁となる。我本性は善だけれども、肉慾の泥から瞋などの濁が生ずるのだと。次に此瞋の濁りが出さぬやうに出來得る哉否やとの疑問を決する爲に一生懸命に試みて遂には濁さぬやうに出來得ると云ふ斷案を下すやうな立派な人と成つたと云ふのである。

又或人は自分の朝寢は矯正することが出來るか否との疑問を解決せんが爲に實行の結果はついに朝起の人と成つたと云ふ。

酒癖の惡きも煙草の害も何でも自分で惡いと認たならば之を自分には矯正が出來得るか否との疑問を起して飽くまで實行して見玉へ、遂には何事でも不可能と云ふ事はないと云ふ斷案を下すやうな勇氣の人となるから。

また信仰の道でも神や佛が有とか無とかの疑問を起して全く有るとか無とか一刀兩斷の下に自ら斷定を下すやうにやつて見玉へ。有るものか知ら無いものか知らとにやくやで仕舞つたのでは矢張り一生にやくやな人間と成つてしまふ。

有爲なる青年衆よ皆さんは天より良知良能の德が與へられて有るけれども、堅き錠がおろして有るから疑てふ鍵を以てそれを開き出して御覽なされ、自からながら驚くほど立派な精神と成るから。

昔二人の僧が風で旗の動くのを見て、一人はあれは旗が動くのだと云ひ一人はいや風が動くのぢやと互ひに爭ふた末、六祖慧能と云ふ人に其判斷を願ふた、處が六祖はそれは旗も風も動くのではない。兩人の心が動いて居るのだと斷案を下したと云ふ。斯等は共に吾人が修養未熟の者には解決のつかぬことを躊躇せずして猶豫せずして斷行せよ決心せよと云ことを顯はしてをる。

## 處世訓

人は其親近父母妻子等死すれば不快にして奮鬪の努力を失ひ前途は擁塞せらる。之

を治する天意の存するを自覺し、彈力性を養成し精神の彈力强からば失敗何かあらん意氣壯烈にして決心鐵の如し。

前途を樂み希望に活きよ。

苦痛は或意味に於て無上の快樂たる事あり。トラーテン曰く。世に苦痛多く快樂多し、然れども戀の甘きことや之を失へる苦痛の時だにも他の快樂の總てよりも快樂なりと。

心頭に陰闇の氣を宿すを常とするは愚人なり。

過去の苦を呼び起し現在の幸福を殺ぐ理なし。

自己の心中の陰闇を他人に及ぼし我が悲觀を分つ勿れ。愁訴する勿れ。悲觀するなかれ。

エマソン曰く。人生に敎育究竟の目的は意思を健全ならしめ薄弱なる感情を抑制するにありと。

エマソンは幼時貧にして書代五錢を拂ふべきを母に拒まれ第二卷を讀むこと能はざりき。是を以て不足なく生成せる子女を見て歎じて曰く、憐むべき卿は其生活の苦痛を知らざる爲めに損失せる所の甚だ多きを知らざるべしと。

一枝の彫管を揮て二十萬の字を作りし女流文豪ルイザ、初より大に成すことある抱負あり、一日其父「アトランチック」の主筆より返送せられたる原稿數葉と書信とを女史に示す、書信中に曰く、專心勉强せんことを、ルイザ殿に勸められよ　女史は到底文學者として成功する能はざるべしと。女史是を聞て曰く、願くば彼に告げられよ、妾は必ず文學者として成功すべし、遠からず「アトランチック」に寄稿する所あらんと。幾もなくして一詩を寄す、ロングフエローは見て以てエマソンの手に成れりと察する程の傑作なりとす。女史晩年に至りて曰く、二十年前妾はなるべく獨立の家庭を作らんと決心し四十歲にして始めて目的を達せりと。

有名なる政治家チャールズ曰く、最初の演說に依て名を知らるゝものは恐らく第一





着の勝利に甘ずるなり。然れとも第一着に失敗するもの毫も屈せず奮然として第二第三序を追うて猛進するあらば其人は必ず最初に成功せしものより大成功を來すべしと。

## 執　着　力

眞に事業に成功するものは必ず犧牲、目的を貫徹する執着心を要す。學校にありては生徒中の呼び物校外にては少年を指導する有爲の青年たるも成功の要素たる執着心を缺く時は其前途知るべきのみ。

執着心强きは信用の由て生ずる所何人も確乎たる決心を有する人を信ぜざるものあらず。かかる人が事業に着手すれば着手の時已に半ば成功せりと見て可なり。何人も萬難を排して成就すべきを信ずればなり。世人は充分の用意と不拔の意思とを以て事業を遂行するの人に反對せず。人あり確信を抱きて勇往猛進毫も他の輕侮を顧ることなく如何なる事情の下にも本分を全うし責任をさけざるの決心ありとせば何人も此に屈服せざるを得ざるべし。

## 克己心と果斷

斷と信。ネルソンとクラントを勝利あらしめしは斷と信となり。果斷は處世上の大要素なり。

ジャンダルクは纖弱なる一小女にして單身國家の危急を救ひたる勇敢は果斷の特性に依りて僅かも彼が祖國を救ふべき神聖なる使命を帶びたりとの確信に鼓舞せられ始めて水火をも辭せざる勇猛の自信を生じたり。

迅速なる決斷と思ひ切たる活動とに對しては鬼神も之をさく。

## 決斷力の効果

ナポレオンが士官候補生たりし時、汝若し糧道全く絕え包圍せられたりとせば如何と問はれし時彼曰く、敵の陣地に何か食ふべき物あらば毫も屈するに足らず。

## 決斷の効果

シルレルの大作「海戰」は病床に呻吟せし時、有名なる音樂家ハンデルの大作は重患の後、ベーベン耳全く聾悲哀の胸に塞れる時活動せり。最も能く苦しむ者は尤も善く成功す。ミルトンか失明衰弱貧困中「失樂園」を完成す。ミルバーン幼時明を失したるも志を弛めず傳導師となりて終に大僧正と成れり。カロスビーは盲目にして三十餘の讃美歌を大成せり。

ブルック曰く、「苦しめる者に對する其の救濟は其人の苦悶を除き去るにあらずして之に耐へ得べき最も強き克己心を喚起せしむるにあり」と。

ダーエンは四十年間病氣なりしに、平生曰く、少しでも弱味を見せんか忽ち病勢の乘ずる所とならんと。

バルウアーは絶えず病るも我病めりとなす勿れ、又我病めりと言ふことなかれと言へり。

某教育家曰く、幼時貧家に生れて教育は意の如くならざりし者長ずるに及んで高尚なる教育を受んとするの希望燃る如し、此希望は暫時にして捨つべからざる決心なり必ず其目的の通路開かれん。斯る希望と目的とは必要の運命を開拓するをうべし。此難關が前に塞ぐも一旦斷乎たる決心あれば封助するものなり。

自主獨立敢て他に依賴せざる氣力なきものは機會の玩弄物にして境遇の奴隷なり。此らは精神氣力を缺き自己の能力を認めず。

### 無爲の報酬は零落なり

人自ら侮つて而して後人之を侮る。人生の價値は人自ら人を作るにあるのみ。自己の恃む所は人亦た之を恃み自己の信ずる所は人も亦た之を信ず。

薄弱自信なく自己の判斷に依賴する能はざる者運命を開くことなし。彼等は自ら躊躇し屏息し他に蹂躙せられ粉碎せらる。





有爲の人は如何なる事變に會ひても之に應ずる力あるを信じ企つる處は成就す。勇敢と意力は終に人に認められ信ぜられ敬仰せらる。而して後よく自己の能力を發揮すべき機會に接す。

### 成功すべき人格

失敗何物ぞ　貧乏何物ぞ　我に無限の精力刻苦あり社會は汝の爲に活路を開かん。

### 處世上の勇氣心

剛健果斷の事業家には社會は謙遜にして自ら道を讓ずる。常人の戰慄すべき不慮の災難がいかに暴威を逞ふして吾人に肉迫し來るも決して屈することなく反つて以て我利器となさむ。

マルフォルト曰く、成功せんと欲する人は常に自身を成功したる位置に在るものとして思慮し活動するを要す、然らずんば決して成功することなし。

### 窮境に因て一段強くなる

カンニング曰く、人の境遇には必ず困難危險苦痛の伴ふあり。人は之を去らんと欲して懊惱す。或は運命の保護を祈り或は行路の平坦を願ひ吾人を慰藉する朋友を望み或は事業に失敗せざらんことを望む衝動あり。然るに天は無情にもあらゆる天災病患憂苦等に際して吾人を苦しましむ。然るに外部より來る禍は恐るべきものにあらずして却て我情慾を制抑し吾人の體幹を活動せしむるに足る。

要するに人をして感憤興起せしむるは困難なる境遇より善きはなし。實力之が爲めに生じ確信之がために起る。人間一度此熱火を冒すにあらずんば克己の神髓を共に語るべからず。

### 浩然の氣を養ふ

精神意氣は恰も火藥の如く猛火の如く物として破碎せざるなく燒かざるなし。之を強固にし旺盛にして社會の鬪技場裡に立つ。虎狼途に横はるも何ぞ恐るゝに足らん。況や闇夜の窮鬼をや。然れども人に賢愚あり。其の性慾の馳る所劣情の馳る所に任

せば意氣精神の以て人を大成する所以のもの却て人を殺し世を毒するの凶器とならん。

## 貯蓄心養成

人生處世上第一に學ばざるべからざるは金錢を貯蓄することなり。是に由て人は痛切に節儉の美德たることを認むるに至るべし。節儉は運命の母にして文野の別は畢竟此美性の有無による。節儉は啻に資材を作るのみにあらず人生の性格を向上せしむ。世間に獨力衣食の資なくして大言壯語するものあり、何たる醜態ぞ。

## 治病

醫藥の外効あるものは強き意志克己心なり。

壯年の元氣を維持し體質を健とす。活潑に他の運動に耐えしむ。彼の不平困苦、心身の健全調和を缺きたるものは早く老衰し、彼の健全なる身心の發達を遂げたるものは悠々晩年を樂しむ。

勇氣中に充實せる不屈の精神と小膽との流行病に感染することは前者は後者の半數なり。

ナポレオン醫師も恐るゝ避病院を訪ふ、患者に觸れて感染せず。

恐れざる者には病毒も感染せず。

## 社會は不斷の戰場

失望嗟嘆因循姑息時間の浪費者、幸運の降り來るを待つも何ぞ得ん。成功は勤勞と耐忍の報酬なり。

肉體を苦しめば靈性は能く本領を發揮す。人生の行路必ず凡百の誘惑あり困難あり之に屈伏すれば天才も鈍物と化し能く打ち勝たば下愚も上達す。

オウジュホン久しく森林に入て寫生苦心の繪畫二百枚を得たり。

ニウトン二十年の理學の大著述の原稿を猫が燈火を顚覆して燒く。併し猫の背をなで莞爾として爾は吾が苦心の何たるかを解せりやと。



ナポレオン負債に苦しめる秘書官の不德を面責し罷免を命ず。

バートン曰く一青年の資質果して王者たるをうるか臣僕たるに過ぎざるかを知らんと欲せば彼に千弗を與へて其の爲す所を見よ。勝利たるの資格あらば彼は不時の急に應せんが爲に之を保存すべきも然らざれば彼は其嗜好に任せて之を消費すべしと。

金錢に對する主要の觀念は負債を恐るゝにあり。

## 算數の智識

成功の秘訣は何ぞ。節約、特に金錢の節約に重を置かざるをえず。節約は貯蓄を生じ貯蓄は成功の母となる。人間を獨立せしむるものは此力なり。青年の活動の氣を生せしむるは此力なり。其材能を縱横に働かしむるも此力なり。幸福と慰安を與ふるも此力なり。故に若し天下の少年をして能く此力あるを知らしめば其法測り知るべからず。

算數の智識なきものは收入以内の生活をする能はず。殊に婦人は此能力を缺くもの多し。隨て日常に家計上損害を蒙ること莫大なり。吾人は中流の家庭が零落の悲運に陷るを見て主婦たる者の責任に歸すべきを知る。ワシントンは大統領たりし時と雖も其家計の出納を親顧る緻密なりき。カーライル曰く、貯蓄は美德なり、人をして獨立せしむと。ラッセルセーデ曰く、節約は幸福の要素なりと。且つ勤儉の道之を實行するは簡單にして容易なり、而も其結果は事業の成功となり家庭の快樂となり社會の尊敬を博するに至る。

素朴の生活をなす者は恐らくは全體に於て富める者よりも幸福ならん。

## 人格の要素

克己は人格を造る要素にしてあらゆる道德の根源なり。自ら抑制なく感情及び性慾に縱にまゝなれば道義は勢力を失ふ。情慾の奴隷となる。道義を發揮し人の本分を盡さんには自然の情慾を抑制せざるべからず。此抑制は即ち克己なり。克己は性格の根底を造り道義生活をなさしむる要素なり。

人は兩面の生活あり、性慾と道義なり。性慾は生理上自然のものなり。自然は養成せざるべからざると共に又抑制せざるべからず。全然性慾に一任せば他の動物と選ぶ所なからん。道義生活に入て心靈よく生理心を抑制す。

## 理想的人物

剛勇忍耐献身等の諸性は習慣を以て養成す。自任放縱度なければ圓滿なる人格たらず。服從と自己の本分とを盡す觀念を確乎にす。是の修養を缺かば吾人は獨立力行の人たる能はず。希望要求を高潔なる靈性に服務せば良心の命に服從す。性癖嗜好の奴隷感情誘惑の玩弄物となるなかれ。

スペンサー曰く、克己心の極致は一の理想的人物を作る。かゝる人は感情に馳るなく、隨處に候生し底止することなき慾望に驅逐せらるゝことなく、自ら檢束し自ら商量し諸種の感覺を綜合し充分に忍耐し冷靜に決定したる結果によりて行動す。是れ道義的教育の必要なる所以也。

## 家庭の教養

德性修養第一着の効果は家庭、次が學校、次が實際社會なり。社會に於る人生の價値は家庭學校にて順境に立ち節制なく訓練なく放埒自在に成長したる者が社會に出て失敗を招くは當然なり。社會も亦た彼等に向て何の益する處なし。

善良なる家庭は其子女に對する訓練完全なり。德性の修養は無意識に良心の活動を見るに及んで始めて健全なる品性を陶冶したりと言ふべきものにて其の習慣性とならざる間は常に其心に調和を缺けば顯著なる効果を見る能はず。

## 家庭訓

### 姙娠中

一、精神の養生、精神爽快に且つ安穩を保ち濫に怒を發すべからず。不意の恐怖及び雜沓なる世務、精神を攪亂すべき感動は除くべし。





二、新鮮なる空氣の呼吸、居室の清潔、演劇等人の集る處に立入るべからず。程よき運動、血液病、消化障害、不眠等は運動缺乏より起る。されど運動過れば又害となる。

屈必壓迫の動はさくべし。

腹部を暖め外寒を防げ。

全身浴をして體を滌くべし。

食料は不消化物をさけよ。晩餐過ぐること勿れ。

熱湯をさけよ。濃茶珈琲をさけよ。

初期に嘔氣を起さば食をべからず。

臨月の腰部、疼痛、眩暈、齒痛劇しきも分娩すれば治ることなれば忍耐せよ。

毎朝清き水、熟したる果物を以て便通を定規す。

乳房は溫暖に保護し、寒さを防ぎ壓迫する勿れ。

臨月近きに冷水にて乳房を洗ひ、乳陷沒するものは唾液にて濕してひき出せよ。

末期身心共に安靜なれ。

## 子を育つる心得

白絹の如く染方による。子の賢愚强弱一生の內此時より大切なる期なし。成長後職業を敎ゆるは父にあり。幼稚の間は母の任なり。

體智德の三育。健康完全、恰到活潑。善良方正。

乳母は子の模範、素情正しきを選ぶべし。子守は子の爲に行儀作法惡しきは不可。

乳飲み過ぎ、子守緊緩をすべからず。日光と空氣の通ずる處に遊ばしめ、室內蟄居食物多く與ふるは宜しからず。玩具を與ふべし。種々の玩具は智慧を增す。三度の食物規則正しく　日に兩度は差支へなし、餡氣をさけ果物未熟は與ふべからず。衣服は華美をさけ運動遊戲に便、經濟と衞生に益なるを選べ。

小兒には虛言を語るなかれ、屢々すれば子は其母を信せざるに到り、また自分も虛

言を吐くに至る。母他出に跡戻りても土産を買つて來るなかれ。子供を濫りにおどかし、子供の泣くや巡査又は醫者を連れて來る等言ふは不可。幼稚兒に讀書を授くるは身體の發達を害す。六歳未滿の子に唱歌又は教育趣味の遊び。活潑に遊ばしめて惡しき風習を染ましめざれ。

天氣の好き日は戸外へ出でしめよ。溫き室より俄に外の酷寒又は烈しき風に觸るれば馬脾風を發す。朝飯早き小兒は食物欲しき爲なればなり。子保は品行正しく友達と口論立食ひなどすべからず。その子自分の遊びの爲に子に頓着せぬはわるし。主家の前を丁寧にし遠く離るれば顔をたゝき尻をつねり子の病を起す。子保は小兒の智慧を發達せしむ。子保を手荒らに取扱ふはわるし。小兒の倦きて厭ふとき強ひて勸むるは惡し。子保は高足駄類のかげたる下駄をはく勿れ。

## 家庭教育

子の教育は母なる人之を抱きて慈愛の呼吸をかけ、子が見へざる眼をもたげて母の顔に向ひたらんときより教育は始る。未だ學校に就かざる前家庭に於て、事物に見聞する處是れ教庭。之を陶器に譬ふれば家庭は大小方圓の本の形、學校は種々の色彩模樣の巧拙なり。身體と相應し腦力の耐ふるに隨ひ、強ひて教ゆるに及ばず。父母年長者の行爲が小兒の觸目悉く模範たり。三兒の魂百までなり。孟母の三遷せし所以。小兒の時の印象は長く忘れず。

家庭教育六歳以下の兒を養ふに、小兒として教ゆべし。大人の如くにならしめ又は強ひてなさんとするは却てあしゝ。天眞の小兒を撓めて修飾せず只惡を見聞せしめざれば足る。衣服を汚すと喧しきあれど兒は遊びが科業、快よく遊ぶと種々新しき智識を養ふ、惡しき遊びと危きの外は放任せよ。衣服の汚はよし、華美は不可なり。運動に便、筒袖の上衣胸あて屢々洗濯し華美の着物の汚を心配し運動を拘束するは不可なり。

## 小兒の喧嘩





兒は活潑數人集まれば始は除りに溫柔は病身、喧嘩には大人干渉なく放任すべし。母の裁判は惡し却て小兒間の怨を永く記臆す。一家の兄弟もよく喧嘩によりて互ひに情愛を養ふ、憂ふるに足らず。

## 小兒の疑問

兒は疑問を起したがる。觸自悉く人に尋ぬ。之はよきに教ゆべし。有効なる智識の涵養、決して禁ずべからず。寧ろ奬勵すべし。之を五月蠅とて無愛想に擯斥するは不可なり。

## 小兒の模擬

兒は何事にても大人の模擬を欲す。角力、軍人、遊女是ぞ孟母の其子を三遷せし所以、小兒の時の印象は忘れず、平生父母行儀惡しければ小兒之を倣ふ。

## 小兒の食事

小兒の待遇注意すべし。兒は自由平等を好み己が與られたるものが他より劣れば不滿を抱き、父母は他を愛して我を愛せずと謂ひ、ついに後年兄弟不和の基となり歪んだ根性を生ず　食物の分配を公平にし、膳に向ふとき衣服態度方正ならしむべし。世に兒に方正を命じながら自ら不行儀なるは兒放縱に流れ易し。父母成るべく實行　模倣せしむべし。

## 不適當の職業（西哲の格言）

ロングフェロ曰く回らぬ過去を以て浪費と爲すなかれ。其難破船に立て吾人は最後に尚一層高尚なる或ものを得んと。

世界文明史上に其名藉々たる詩人、哲人、美術家、哲學者將た學者にして其天才を父母保護者乃至教師に誤解せられざりしもの稀なり。此等の場合に於て神は直接の反對を以て勝を制したるが如し。神は其寵兒が爲に其特權を主張し、不從順秘密虚言は勿論脱走拐帶等を以て敢てせしめしは、其非常なる苦心を以て造りたるものを失ふに忍びざりしが故なりと。

ガリレオがピサの大學に入るや哲學に耽りて醫學の研究を忘るゝ勿れと父に誡しめらる。然れ共彼は己れの好む處に隨て終に稀世の天才を完全に發達せしむ。若し彼をして醫者たらしめば世界はいかに損失の大なりしぞ。

マーデン曰く、虚榮心に富める父母は動もすれば其子の職工たらんとする相當なる希望を撿束して、強ひて大學に入らしめ天晴有望なる職工を平凡なる法學者と爲す。其愚や及ぶべからず。また高尚なる學問思索を熱望する少年を不明の父母は度外視し碌々たる呉服屋の番頭となし畢る。

フランクリンの父はボストン市に蠟燭製造人たり。父の爲に燈心を切りしが其業を厭ひて兄の先蹤に習ひて海上に逃れんと決心し、遂にフイラデルフイアに脱走して後大業を遂げたり。ヂッケンスは初め俳優を志して成らず方面を轉じて以て驥足を伸すに作の適當を得たり。現今過半の人は適所を誤つて轗軻不遇を嘆じ以て大倉の粟陣々相寄るの觀を呈せり。人各々其處を得る時に世界の文明は其最高潮に達せん。現今有爲の青年男女にして誤解せられ、窘迫せられ將た自己の事情、過失或は父母の事情過失の爲に押込められたる四角の穴より脱せんと蹠きつゝあるもの豈千百にして止まらんや、實に適處を得た人は幸福なり。其任にあらざる人も敢て活許には差支へなかるべしと雖も、適任者に固有なる呼吸と活動と精力と熱心とを失へり。勤勉は彼に於て之を見ることを得るも唯器械的に働くのみ。不適任者は絶へず時計を眺めて日を暮す。

人其適所を得る時は幸福、喜悦、快活及び活動に富む。彼の爲に今日は常に短く彼の有せる一切の能力は彼の仕事に同意を表し、彼の職業に「然り」を言ふ彼は丈夫なり。自重す。然して彼の實力は彼自然の圈内に於て遊戯するが故に幸福なり。社會に適所を得る者例へば醫者として成功すべき宣教師、技師に適材なる番頭の多き頗る多を見るは何人も人間の判斷力、人生に於ける地位の選擇に過失を演ずること往々なるを否定し得ざるべし。人にして功名心なきはなし、人若し自分の判斷に訴へて選擇を誤る時は、數年を出さずして其過失を發見するも自覺すること晩き時は成功の機會





を逸すること多し。實力を知る者は必ず成功の確信を有す。是に於てか人の適處を知る法いかにてふ問題生ず。而して其答に「己を知る」の一語に盡せり。何人も他人より見れば一個の不可解の謎なり。造物主より密封せる命令書を頂戴して派遣せられたる代理者なり。人其位置を發見する時は之に通せる故に熱心なり滿足なり。確信ある時は自ら驥足を伸ばす可し。魚は陸上に於て泳がんとせざれども水中に在る時は其鰭を用ゆることに躊躇せず。「勤勉は萬事に勝つ」「精神一到何事かならざらん」「人は能ふと思ふものをなし能ふ」等の大言壯語に煽動せられて其業を賤しめ、不適當なる法律を學ぶあり其愚や眞に憐むべし。

古來人材の蹉跌する者多きは何の故ぞ。龍淺水に遊ぶ時は蝦の戲れに遇ひ、虎平薄に落ちて犬に欺かる。英雄も其處を得ざれば木偶に等し。惜むらくは彼等其適所を發見するの法を知らず。才の用ひられざるを嘆じ知己なきを嘲ち、失意落膽の餘り自暴自棄するに至る。犯罪自殺等の如き人生最恨事は正に適所を得ざりし人の陷る弊竇なり。得意の人は罪を侵さじ、人適所に在る時は心平なり滿足あるが故なり。農夫たり鍛治屋たり村夫子たるも敢て恥となさじ。名をさけ實を取り褐を被りて玉を懷く。彼や其適所を得たり其天の使命を果たさんとする自信は自ら彼を化して勢力を爲す。彼は一木の莖も亭々として敷丈の高き天を摩するの觀あり。

「汝の適處を求めて汝の任を全ふすべし」

自然が汝に期待する所に就け、さらば成功すべし徒らに其他を望まば無より數千倍劣れるものとならんと」

（右アメリカのマーデン氏の成功てふ書よりシドニースミスの言を抜粋す）

## 不斷の規律的生活

眼光機惠用意周到なるもの不斷の光規律正しきに非れば、今日の快活一變して憂鬱三變憤怒をば根據なく起すに至る。意志の鞏固なる地盤堅き規律の上に不斷の進行は快活の清風除ろに潔白健固不動。慾鬱失望の人も不斷規律と秩序生活とならは快

活と清爽の觀念に入る。自己日常の規律嚴正なる自己の目的に到達せんが爲には不斷の鍛錬は理想の如くにす。人々を至善に向つて向上し意志を鍛へ圓滿なる人格たらしむるは秩序的生活なり。不斷なれば必ず改る。人一定の業務なく規律なく困循無爲の中に貴重の光の時間を過さば、其心に不斷の活氣なく想に葬られ意氣沮喪す。人の確乎たる目的に向て規律あり秩序ある生活には前途には光輝々として不斷に向上し無限の希望は不斷にして不斷の趣味を生せん。

不斷に規律を立て事務を進行すべし。規律と秩序生活は天賦とまた平素の訓練なり。事務整理上規律なき人は危險なり。秩序立つて飽く迄一方を濟ます。

一事に一時。整理し了らざれば他に着手せず。實務家に秩序的生活の工夫なからんか實に混亂否塞して失敗蹉躓失望の淵に立ちて晩年を送らん。

### 子供の泣樣

**病氣泣、**

脅し泣。泣く子の兩手をしつかり握て手を放とする。其中に子供の方で反應のなきを見て次第におとなしくす。子供の盛なる突擊來る時は

**癇癪泣。**こは肉體及精神の異狀から來る。床の上に寢かして頭を冷し出來る丈親切にすれば感じて止む。

**拗ね泣。**すゝりなき時を得て賺せば止む。成べくすてゝ置き好い時にすかすべし。

### 子供の人格

人格を作り上る元因には必ず嚴格なる家庭の教育兩親の感化子弟の教育に熱心なる者は賢明なる雄々しき氣象の母彼を天晴人物に育てんとの苦心慘憺の家庭は彼を然あらしむ。

## 交友訓

汝の位置と義務とは斯のホームに存す、艱難辛苦大ならば其報酬もまた益々豐なら





ん。

如何にして他人に滿足を與ふ。何人に對するにも輝ける微笑と深切なる言語と愉快なる待遇を示せよ。世には知識思慮判斷の缺乏する爲に自己の愛し庇護せんとする人をも怒らしむることあり。人の知に乏しき點は如何に人を愛し如何に人を憎むかの一事なり。彼等は自己の愛する人に對しては或は寛容に過ぎ、甚しきは偏頗的庇護を與へて却て其人を賊ふことすらあり。自己の好まざる人に對しては怒るに時を以てせず、却て己を害するあり。

人に對しては餘りに城廓を設くること勿れ。憚る所なく汝の情愛を外部に發現せよ。

最良の交友は諸德中高尙なる者にして我等の歡喜は之を二倍し我らの憂苦は之を半分にす。交友は人生の寶石なり、朋友なき人は甚だ憐れむべし。況や朋友なき人は多分その人自身の過失によるに於てをや。

人は何の時にても友人に對して不滿を抱くことあるべし。斯る場合には忍耐せよ、分別せよ、朋友と位置を替て觀察せよ、何事も輕率に斷ずること忽れ、自然は決して苟皇たることなし。

若し朋友の態度行爲に對して疑惑の挾むべきあらば、其儘眠につけよ。決して喧爭する勿れ。反覆熟考せよ、時間を經過せよ、終夜惱むとも多くは明朝は心機一轉するものなり。

汝若し友を破るべき書翰を認めなば直ちに之を郵便函に投ずる勿れ、翌日まで置けよ往々全くこれを發送せずして止むことあるべし。

良友は友を多くの危險の中より救ひ出し友の爲に多くの悲痛を擊拂ふ。羅馬帝オーガスタスが其息女チュリアの故を以て恥辱を被むるや、嘆じて曰く、若しマセエナスにして存命せんには豈かるゝことの起るべけんやと。

されば人一たび朋友を得たる以上は汲々として之を失はざらんことを務めよ、たと

ひ瑣細たりとも彼等をして不滿を抱かしむることなかれ、朋友は死して幽明を隔つることあるも猶未來に於て再び相見るの望あり。

時間の浪費は後悔の基、時間は天の貴重なる賜の一にして一度之を失はば再び回復し得べからず。

されば時間を使用するに際して他日の後悔を貽すが如き行爲あるべからず。

## 歡喜光なき處（人生を淋しく葬す人）

常に歡喜光あるを信ぜず、何事に就ても不滿を抱き憂思苦痛の言語を發する者は、人生の平和幸福を享受せられざるは勿論、是ミオヤの歡喜光を無する罪人なり。些少の不平を忍ぶことを知らず、少しの忍耐を發揮すべき勇氣なく、己が氣儘に任せ、ミオヤの光を顯むことなきものは、一生不幸は茲に萠發し他日に憂苦の花開き、いかに精神的に闇黑の生活を逝れんとするも得て期すべからず。憂悲惱惱の果は結びて終身煩悶の奴隷とならん。

## ミオヤの大悲

聖善導は敎へ給ふた。毎晨朝に、

佛は救世大慈の父なりと念へと。毎晨朝に之を誦せよと御勸めになりしは、先づ朝日昇ると共に、朝日輝く大慈の父を念じて、今日一日あなたの御慈しみとみ光とを被むりて活き、また靈化せられつゝある身なれば、あなたの御慈しみに對して、聖意に合ふやうに、聖寵に育まるゝやうに、今日の賜ものの貴重なる時間を善用するやうに一心に心がくべく敎え給ふた。我らは幼き子にして、大ミオヤの聖寵を離れては、唯肉の方のみに働らきて、靈に活くべき最とも貴き方には進むことの出來ぬ頑是なき兒唯大慈父の御慈しみによりてのみ育まるるもの、聖寵のまに〳〵慈悲の乳房を哺みてます〳〵發育することなれば善いけれども、唯亡びにゆくの形の方にのみます〳〵發





達して、如來の御子たる我をして發育することの出來ぬのはたゞ慚愧の外なし。

大悲のミオヤを人々に紹介して、大ミオヤの在ますことを信じて、聖意を我意として、生活するやうにと、先日よりももつぱら勸むれどもまだ自分の誠少なくして、全く聖意に充されて居らず、私の心を以てミオヤの聖意を宣傳せんとして居る故に、何人をも信せねばならぬ大ミオヤの聖意を皆に紹介することが出來ぬ、夫でも大ミオヤは、此實に憐な曠却己來ミオヤのいと暖なる懷を離れて六道の迷子と成つて淺間敷も餓鬼、畜生の魂となつて、人間の形を假りて居る人間計りが充滿して居るのはいとも憐れとおぼしめし給ふ。

大正十四年七月二十日印刷
同　廿五日發行
誌代年七冊一圓二十錢（郵稅共）
年十二冊二圓（郵稅共）
編輯兼發行人　山崎辨成
東京市小石川區茗荷谷町九八
印刷人　小林七太郎
東京市小石川區水道端二ノ四四
發行所　ミオヤのひかり社
振替東京六六八五一番